

# 競走馬部門完全民営化!!

## 市政調査会1月例会報告 1月20日開催

遠野馬の里の整備については45億円を投じてきた経緯がある。職員数は、市派遣職員を除いて17名で、設立当初と比して半減しており、人件費についてはコスト削減を徹底して行っている。

競走馬事業の内容は、施設の管理運営の他に当初は競走馬を直接調教する事業を実施していたが、コスト削減の中で職員を減らし、調教は民間に委ねながら進めてきている。

この施設の目的や狙いは、乗用馬生産や、馬事文化の継承・発展ということ、様々な馬を活用した事業展開をしていることとするものである。

里開設の平成10年以来、馬の里職員が競走馬に實際乗って馬の調教をしているが、後になって、改革の一環として直接の調教はやめて民間に移行してきた。160も

ある馬房のうち利用率が50～60%となかなか利用しきれない状況が続き、そこで、施設の賃貸方式や貸出方式に変換をしていった。

しかし、馬インフルエーションや馬パラチフスが発生し、馬をなかなか集めることができない状況が続いた。さらに、世界同時不況の波が押し寄せ、預託頭数が減少したというのが平成18年からの状況である。

そんな中で、徐々に資金繰りが悪化してきており、資金不足が約2千万円程度と見込んでいます。

現在では、預託頭数は85頭前後に還元、維持してきているが、平成21年と22年の落ち込みは大きい。

今後、進化まちづくり検証委員会からの緊急中間報告にあるとおり「施設の管理運営は完全に民間に委ねる」方向を目指



競走馬の覆馬場での練習風景

す。現在の方式では、利用頭数を安定確保できないということである。

以上の大きな課題に対して育成調教施設の利活用を継続を図ること、経営リスクを回避すること、運営を民間に移行する

という形が必要だろうと考えているところである。

一方で、完全委託しようとしている民間側からは、劣化しているウッドチップ交換、故障中のボイラー修繕、馬道やウォーキングマシン、

ダート本走路の路盤の改修などが受託条件として出されている。おおよそ見込んだ額は4千万円となっているが、この額を上限として対応する考えである。

競走馬部門を完全民営化することで、馬の里は乗用馬中心の、馬事振興事業を展開することになる。

また、平成22年度から平成28年度までは、建設費償還ということで債務負担行為の額1億2千800万円があり、これを払い終えれば借金はなくなる。これは引き続き市の支援として償還をせざるを得ないだろう。平成21年度までに支援してきた額は12億7千万円という額にのぼるが、経営リスクを解消することによって、今後は支援の必要がない形にしなければならない。

ただ、大きな災害も想定されるので、その場合には協議に応じていくことも検討しなければならぬ。